

・。床下は、床下暖房のため空気が動き、少なからずホコリが溜まります。最初のうちは、床下を掃除機で掃除したこともあります。もう7年くらいそのままです。たまに虫もでます。しかし、床下のホコリが室内に舞うことはありません。誰か掃除してくれないかなと思っていて、あっ、お掃除ロボットを床下に入れておけば綺麗にしてくれるかも。
色々調べました。勝手に充電してくれること、音が静かなこと、夜に勝手に動かないようにタイマー管理ができること、ゴミ容量が大きいこと、年数が経っても交換部品があること、安いこと。
結局、〇〇バなんですよ。他の一流メーカーや三流メーカーもありますが、実績を重視してしまいます。
実は、まだ購入していません。居室に使っていないのに、床下に〇〇バなんて、なんて贅沢な・・・結局はこれが理由だったりします。
我が家の床下に〇〇バは来るのでしょうか。続く（いつか）。

（企画課 廣田）

研究紹介「自律分散制御機能を備えた省エネ・長寿命住宅に関する研究」 （平成24～27年度 一般共同研究）

自然災害や事故による停電や断水を体験したことのある人は、かなり多いのではないのでしょうか。こうしたライフラインの復旧には、大きな震災では3カ月以上かかるときもあります。自然災害が多発する我が国では、住まいが居住者を守るシェルターとしての機能を備えることが、とても重要で、そうした住まいの実現に向けて、着目すべきポイントの1つがエネルギーです。

日常の省エネ化を図る設備や技術には、ライフライン切断時にも役立つものがあります。例えば、建物の断熱性能が高いほど、停電で暖房できない時の室温が低下しにくくなります。太陽光発電は停電時にも発電できますし、発電した電力を蓄電池に溜めれば、悪天候で発電できない時や夜間に使うこともできます。また、雨水タンクがあれば水洗トイレなどの生活水として使えます。

標題の研究では、住宅周辺の安全性や居住者の状況に応じて、避難所に避難せずに「自宅で過ごす」ことも選択できるようにしたいと考えました。停電と断水を再現する実棟実験をしたところ、実際に役立つシステムとするには、いくつかのコツや今後改良すべき課題があることがわかりました。例えば太陽光発電の場合、停電時に利用可能な電力量には、日常の利用時とは異なる上限値が設定されていて、場合によっては、大面積の太陽光発電パネルがあり、天候も良いのに、少しの電力しか取り出せない、といった状況になることもあります。発電量の上限値は機種により異なるので、上手な機種選びが必要です。また、給湯タンクの中には数百リットルの水が溜まっている場合があるので、取り出して利用したいところですが、そのためには手の届く位置に、水を取り出すための蛇口等が必要です。

（実験の詳細はコチラ：<http://www.hro.or.jp/nrb.html>
→「研究開発」タブ →「調査研究報告書」タブ → NO. 367）

このような課題に対応しつつ、今後も、日常の省エネルギーに加えて、ライフライン切断時も考慮した、住宅や建築物の研究を進めたいと思います。

（環境G 北谷）

イベントのお知らせ

■8月3日（水）、上川農試公開デーに出展します

上川管内には「上川農業試験場」「林産試験場」「北方建築総合研究所」の道総研の3つの機関があり、連携して様々な取組を行っています。その一環として、8月3日（水）に開催される『上川農試公開デー』に、建築研究本部 北方建築総合研究所のブースも登場します！

北総研のテーマは「地震に強い建物ってどんなだろう？」です。ペーパークラフト教材“紙ぶるるくん”を使って、地震に弱い建物の特徴を、実験しながら楽しく理解できます。どんな時に大きく揺れるか？/どうしたらあまり揺れなくなるのか？/いろいろ試してみることができます。

この機会に、ぜひご参加下さい。

日 時：8月3日（水） 10:00～14:00

場 所：上川農業試験場 庁舎1階玄関ロビー（上川郡比布町南1線5号）

上川農試公開デーのチラシはこちらからご覧になれます。

↓↓↓

<http://www.hro.or.jp/list/agricultural/research/kamikawa/topic/2016kokai.pdf>

■9月10日（土）「きて★みて★はっけん！！ほくそうけん☆公開デー」を開催します

建築研究本部では、来る9月10日（土）に、多くの方々に研究所を知っていただき、また、科学技術に対する理解を深めてもらうために、一般公開を行います。今年のテーマは「防災」です。「楽しく学んで防災博士」「津波の高さ・速さ体験」「消防体験」など、たくさんの体験・展示コーナーを用意しています。詳しいプログラムが決まり次第、ホームページ・メルマガなどでお知らせします。多くの皆様のご来場をお待ちしております！！

日時：平成28年9月10日（土）10:00～16:00

※体験・展示コーナーは15:00まで、その後、避難所運営ゲーム（HUG）に関する講演会（15:00～16:00）があります。

場所：旭川市緑が丘東1条3丁目

北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所

■イベント・行事予定

□「住宅の耐震セミナー」を全道で開催しています。

《これからの開催予定》

| | | | | | | | |
|------|----------|---|------|----------|---|-----|----------|
| 留萌市 | 7月21日（木） | / | 江差町 | 7月22日（金） | / | 根室市 | 7月27日（水） |
| 釧路市 | 7月28日（木） | / | 帯広市 | 8月2日（火） | / | 旭川市 | 8月4日（木） |
| 稚内市 | 8月5日（金） | / | 岩見沢市 | 8月9日（火） | / | 浦河町 | 8月10日（水） |
| 倶知安町 | 8月24日（水） | / | 室蘭市 | 8月26日（金） | | | |

※会場や参加申込など、詳しくはこちらからご覧下さい。（参加費無料）

↓↓↓

http://www.hro.or.jp/list/building/research/nrb/koho/event/160616_2.html

□平成28年度きた住まいる技術講習会及び建築物省エネ法セミナー・意見交換会を開催します。

《開催予定》

網走市 8月18日（木） / 函館市 8月31日（水） / 室蘭市 9月1日（木）

帯広市 9月 7日 (水) / 釧路市 9月 8日 (木) / 札幌市 9月14日 (水)

※会場や参加申込など、北総研HPで近日中にお知らせします。(参加費無料)

(企画課 盛永)

最近の研究所の動き

■「建築物省エネ法への対応及び『きた住まいる』に関する説明・意見交換会」(旭川)を開催しました。

平成28年6月16日(木)に北総研多目的ホールにおいて、道総研建築研究本部、北海道及び一般財団法人北海道建築指導センターの主催により、「建築物省エネ法への対応及び『きた住まいる』に関する説明・意見交換会—上川の地域特性にふさわしい建築・住まいづくりにむけて—」を開催しました。当日は、建築設計の実務者、行政職員をはじめとして、90名を超える多くの方にご参加いただき、盛会となりました。

2020年までに住宅を含む建築物の新築等の際に、省エネ基準への適合が義務化される見通しであり、設計者は省エネ計算の理解・習得が必要となります。また、道が推進する住宅政策「きた住まいる」について、新たな取り組みとして「先導型ブランド住宅」が今年度創設されます。こうした状況を踏まえ、道内建設事業者にとって今後重要となるこれらの情報を広く周知し、これからの建築・住まいづくりを考えるきっかけとすることを目的に、今回の説明・意見交換会を開催いたしました。

説明会では、国の省エネ施策の動向をご紹介するとともに、建築物省エネ法に基づく省エネ計算の流れを実演することで、「省エネ基準・計算」について理解を深めて頂くことを目指しました。また、「きた住まいる」や「省エネラベリング制度」を通じて、北海道が目指すこれからの住宅像の一端をご紹介し、上川の地域特性にふさわしい住まいづくりについて、貴重なご意見をいただきました。

8月以降、道内6か所で同様の説明会及び意見交換会を開催する予定ですので、お近くで開催の際は、是非ご参加下さい。

(環境G 齋藤)

■構造計算適合性判定センターから

□28年度4月～6月における判定業務状況

受付 37件 (42棟)
結果通知 40件 (45棟)

本年度の第一四半期となる4月から6月までの適合性判定状況についてとりまとめご報告します。

昨年度6月に建築基準法の一部改正法が施行され、申請者が直接適合性判定を申請するように制度が変わりました。今まで付属棟についても適合性判定が必要であったものが昨年度の改正で不要となったこと、及び構造計算ルート2の場合申請先によっては適合性判定を行わなくても良い旨の制度変更があったことから、昨年度と一昨年度の同時期の比較によると、北海道内の適合性判定申請件数は申請可能な5機関の合算で約80%になっております。当判定センターの本年度第一四半期受付件数も37件(前年度比79%)、受付棟数も42棟(前年度比78%)となり、およそ2割が減少しています。

総判定日数（受付から結果通知までの期間）の平均日数は22.6日（前年度比－11日程度）、実判定日数（設計者の修正期間を除く実際の審査期間）の平均日数は8.0日（前年度比ほぼ同程度）となっています。

建築基準法の一部改正から約1年が経過しましたが、適合性判定の申請については確認申請の進捗との関連がより重要となり、適合性判定を早くに終了しても確認申請の終了を待って通知するなど待ち時間が増えてきているのが実情です。待ち時間を減少させることで円滑な申請が可能になると考えると、適切な申請時期や申請方法の選択などは待ち時間の減少に有効であると考えます。

（構造判定 G 本間）

■【四半期業務報告】

平成28年4～6月の受付件数

□依頼試験（担当：性能評価課）

依頼試験 6件
設備使用 6件
性能評価 2件

□施設見学（担当：企画課）

件数 16件
人数 80名

□技術相談（担当：企画課）

件数 51件

=====
管理者からのお知らせ
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。
登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。
メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken_n
変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken_q

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

<http://www.hro.or.jp/list/building/research/nrb/index.html>